

寿文庫活動

三重県 尾鷲市立図書館

基本データ

所在地	三重県尾鷲市中村町 10-41
職員数	5人
うち司書数	3人
蔵書数	約74,000冊
利用登録者数	9,177人
年間貸出冊数	57,610冊
(児童用図書貸出数 17,383冊)	

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】その他

【活動のねらい】

- 市民による図書館支援と、読書活動の推進。

取組・活動の概要

- 尾鷲市では、厄年の人が厄払いに寺社の境内で硬貨を投げる「まき銭」という風習があった。これはお金を撒いたり使ったりすることで、厄も落ちるという考えによるものである。
- しかし、1960年代はじめ頃より、厄のまき銭を拾った子どもたちがかなりの金額を小遣いとしていることが、青少年の健全育成の観点から批判されはじめた。また、経済成長と共に厄払いの宴会なども派手になってきたことに対して、厄払いの見直しを求める声が市民より上がっていた。
- こうした背景から、1966年、「まき銭の廃止や厄祝を簡素化し、その経費で市立図書館の図書購入支援をしよう」と尾鷲市に本店がある紀北信用金庫の元理事長・故土井周平氏が提唱し「寿文庫運営委員会」が発足したことから本活動は始まった。
- 寿文庫活動による募金は、毎年1月5日から3月12日の厄参りが行われる期間に実施され、期間中、当館にて寄付を受け付けている。
- 尾鷲神社と市内6つの寺（金剛寺・妙長寺・常聲寺・祐専寺・光圓寺・永昌寺）に協力箱を設置し、厄参りの人たちに募金を呼びかけている。
- これらの活動によって得た寄付金は当館の図書購入費に充てられ、通常の年間予算では購入が難しい高額本や利用者からのリクエスト本などを購入している。



展示写真 寿文庫コーナーと協力箱

取組・活動の工夫や特徴

- 2015年には、事業開始から50周年を迎えるに当たり、寄付金を募るポスターを一新することにして、2014年にポスターコンクールを行った。
- ポスターコンクールには122点の応募があり、最優秀賞を受賞した作品が新ポスターに決定し、寿文庫の活動期間中、市内の掲示板などに貼り出している。
- また、キャッチフレーズ「厄年のまき銭は寿文庫へ！」についても、少子高齢化に伴い、厄年該当者が年々減少し、寄付金も減る傾向であったことから、50周年を機に募金の対象を、厄年該当者ばかりでなく、喜寿や米寿といった「祝い年」の人たちへも広げてはどうかという意見が出た。

- そのため、新ポスターに掲載するキャッチフレーズは「厄落とし、長寿のお祝いは寿文庫へ！」と変更し、「祝い年」の方にも寄付を呼びかけるようにした。
- このポスター効果と寿文庫運営委員の広報活動により、「祝い年」の人たちからの寄付も順調に増加した。



ポスター作品展

取組・活動の成果や今後の展望

- 寿文庫運営委員会では、毎年いろいろなアイデアが出される。
- 例えば書店・商店・銀行などへのポスター掲示の依頼や、市内の中学校・高校の美術部によるポスター展の提案など、寿文庫を盛り上げ、周知するための方法を検討・実施している。
- これらのことがこの活動が現在まで続く要因の一つとなっており、2016年には、長年の活動が認められ、市長表彰を受けた。
- 市民の善意によって支えられているこの活動は、当館の大きな特色となっているので、今後も市民のみなさんとともに図書館を盛り上げていきたい。

